

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503601		
法人名	有限会社 ほのぼの月寒		
事業所名	グループホーム ほのぼの月寒 1F		
所在地	札幌市豊平区月寒東2条19丁目20番19号		
自己評価作成日	平成28年10月19日	評価結果市町村受理日	平成28年11月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170503601-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170503601-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『笑顔と思いやり』の理念に基づき、笑顔でほのぼのとした雰囲気の中で、和気あいあいと楽しく安心した生活ができ、ご家族やご利用者様に満足していただける様な愛情ある真心こもった支援を心がけています。  
また、町内会や近隣の方々とのつながりを大切に、イベントなどでは地域の方々にも参加して頂き、一緒に楽しむことで更に繋がりを深めていける様努めています。  
ご利用者様の可能性を見い出し、ご本人の望む支援を出来るよう日々心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム ほのぼの月寒」は、バス停から徒歩で数分の静かな住宅地に立地している。居間や食堂には、大きな窓から明るい光が注ぎ家庭的で温かな雰囲気が感じられる。管理者を中心に、全職員で一人ひとりの思いに寄り添いながら個別支援に取り組んでおり、「夢かなえプロジェクト」として本人が行きたい場所などを目標に掲げ、居室入り口に計画表を掲示して夢の実現に向けて歩行訓練などを積極的にを行っているユニットもある。町内会の会議に管理者が出席したり、利用者と一緒に地域の夏祭りやゴミ拾いなどに参加して近隣住民と交流を深めている。近くの有料老人ホームと災害時の協力体制を築き、バーベキュー大会などに参加することもある。利用者と一緒に食材の買い物に出かけてデザートバイキングをしたり、好みを取り入れて寿司やラーメンに献立を変更するなどバラエティーに富んだ食事を提供している。週に数日は調理専門の職員を採用しており、他の職員が利用者とゆっくり寄り添えるように工夫している。入浴は、浴槽のお湯を毎回入れ替える事で、各利用者の好みの入浴剤を入れながら好きな時間帯でゆっくり楽しめるように配慮している。管理者は、職員の意見や提案に耳を傾けながら事業所の更なる向上を目指して、日々意欲的に運営に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が理念の『笑顔と思いやり』に基づき、明るくほのぼのとした雰囲気を心掛けています。	地域とのつながりを明記した3項目からなる運営理念を作成して事業所内の要所に掲示し、各職員のネームプレートにも記載している。職員は、年1回全体会議の中で代表者から理念の説明がある時に再認識して更に理解を深めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会議の参加、運営推進会議に町内会役員の方や民生委員の方にも参加していただき、地域の住民の一員として接点を持つよう心掛けています。	地域のゴミ拾いや近隣の有料老人ホームのバーベキュー大会に参加している。児童館の音楽クラブやボランティアのマジックショーが来訪している。今後も子供達との交流を増やせるように、学校や幼稚園に働きかけていきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当施設の玄関先に認知症に関する悩みや相談窓口の案内を掲示し地域の方から認知症の相談や見学を受けれる体制を作っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では日々の活動報告や利用者様の状況を報告させて頂き、参加して下さっている皆様から頂いた情報や意見、アドバイスを参考にしながらサービスの向上につなげています。	会議案内と議事録を全家族に送付し、事業所からの報告を中心に会議を開催している。町内の方から排雪のパートナーシップについて情報をもらい、雪対策に役立っている。年数回1名の家族が参加するだけで、家族の参加が少なくなっている。	テーマを記載した会議案内を送付して事前に意見を聴き取るなど、参加できない家族の意見も会議に活かすよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市や豊平区管理者連絡会などで日頃から連絡を取り、ご利用者様の状況やニーズを伝え連携を深めるようにしています。	管理者は、介護保険の更新や保護費の申請、家族対応などの相談で区役所を訪問している。保護課の職員が定期的に来訪したり、担当者が代わると挨拶に来てくれるので、その都度話しをしながら相談することもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	資料や外部研修などで理解を深め、身体拘束廃止委員会を設け、話し合い実践へと移しています。	「高齢者虐待防止マニュアル」と「身体拘束ゼロへの手引き」を整備し、「禁止の対象となる具体的な行為」11項目を事務所に掲示している。年1回、身体拘束とスピーチロックについて事例検討を含む内部研修を行っている。外部研修後は、内部で報告研修を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記と同様資料や外部研修などで理解を深めて頂くと共に、身体拘束廃止委員会を中心に虐待について社内勉強会を開き、虐待防止に努める。		

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用されている方はいないですが、今後、必要と思われる時には、管理者より職員に説明し制度の再認識を心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に基づき、ホーム内でできること出来ないことを明確に説明し、ご利用者様の状態変化などによつての解約・改定に際しては十分な説明を行うことで理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時には、ご利用者様の日々の様子をお伝えしたり、要望や意見などをたずねたり等、どのような事でも話せるような雰囲気づくりに努めている。	本人の様子を毎月手紙で伝えている。来訪時やケアプランの説明時に家族の意見や要望を聴き取り、ケアプランや支援経過記録に記入している。今後は、意見や要望を個別に記録に残し、些細な家族の思いも把握していきたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は職員と個別に面談し、職員の意見や要望を聞く機会を設けており、管理者は日常の中で意見や要望・相談を受け運営に反映させるように努めている。	管理者は、日頃から気軽に職員が話しかけられるような雰囲気づくりをして率直な意見や提案を聴き取り、職員から提案された休憩スペースを新たに設置している。リーダーやサブリーダーを中心に、各職員は委員会などを担当している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得における支援や、それに伴うお祝い金を出すなど向上心を持って働きやすい環境づくりに努めています。また、去年より人事考課制度を導入しており、個々の職員の努力や実績を評価することでやりがいを持って仕事ができる体制づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員が研修に参加できるように機会を設け、研修後は新しい知識・情報を共有することで職員のスキルアップを図っている。また、社内で研修委員を選定し、毎月のフロア会議の場でも研修時間を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は施設長会議などで関連事業所との会合があり、リーダーやサブリーダーは定期的な関連事業所との研修により交流を図ることができている。また、職員に関しても外部研修に参加する事により他同業者との交流を通じて意識の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスをご利用になる前に、ご本人と面会をしお話を聞くことで希望や要望を知り、又、入居後もご本人の気持ちや思いなどに耳を傾けることで安心して生活していただける環境、関係作りに努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談で、入居に至るまでの経過やご家族の希望、困っていること、要望を聞き出来るだけご家族の思いも酌んだサービスの提供をさせて頂くことでご家族にも安心していただけるよう努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に至るまでの過程や面談時のお話などの会話の中でこれから必要とされる支援を見極め、ほかのサービス利用に繋げるなど対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時間を共に過ごさせて頂くうえで、家庭で家族と一緒に助け合いながら暮らしていく。と言ったような形で互いに支え合いながら過ごすことが出来るよう努めています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは来訪された時や、ご連絡をさせていただいた際に日頃の様子をお伝え、またはご相談させていただくなど、情報を共有させていただくことで、共に協力しご利用様を支えていけるような関係づくりに努めています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人物や思い出の場などご本人が大切にしていた交流や生活との関係が途切れてしまわないよう一人一人の生活習慣を尊重し支援することに努めている。	職場関係の友人が時々来訪したり、同級生から電話がくることもある。職員や家族と一緒に、小樽に出かけた利用者もいる。個別支援で馴染みのパン屋さんやスーパーなどに買い物に出かけたり、家族と一緒に墓参りに出かけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の日常の様子から関係や様子を見守り、ご利用者様同士がお互いに理解し、健やかに生活することが出来るように努めています。			

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて支援、相談に努めるようにしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃、コミュニケーションを計ることご利用者様の思いの把握に努めている。また、意思疎通の難しい方にはご家族に協力頂き、情報を知ることで希望や意向の把握に努めています。	会話や仕草、表情などから思いを汲み取り、本人の意向に沿って支援できるように努めている。センター方式を活用しているが、追記や定期的な更新が十分行われているとは言えない。	全利用者の書式を統一し、各利用者の趣味や嗜好などの変化を把握できるように、日付を記入しながら追記や書類の更新を定期的に行うよう期待したい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談などで、ご家族様やご本人様より今までの生活やサービス利用に至るまでの経過を聞き、サービスにつなげている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来るだけご本人様主導に努めているが、危険回避のために職員が状況に合わせて支援をしてしまうこともある。その為、その時の利用者様の状況をみて気持ちを考えながら支援に努めていく必要がある。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士、常に情報交換に努めご家族とも相談しあい連携を取ることで、現状に即した7計画が作られている。	ユニット会議で出された課題や各職員の評価を基に、家族の意向を確認しながら利用者担当職員と計画作成担当者を中心に3ヵ月毎に介護計画の見直しを行っている。介護計画を意識して、わかりやすく支援記録に記入しているとは言えない。	介護計画の見直しに日々の支援記録が活かせるように、介護計画のサービス内容などに沿って変化や課題を記入するよう期待したい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には分かりやすく記録し、申し送りにて職員間で情報共有することで、計画に反映している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診をはじめ、お買い物など、ご利用者様の希望に応えることができるよう取り組んでいます。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて地域包括支援センターの職員や周辺住民の方も参加されており、情報を提供しあい共有をすることで協力関係が築かれている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受信は職員が対応することもあれば、ご家族様が対応される場合もある。ご本人やご家族様が希望される医療機関を優先し受信するよう支援し、ご家族様とも連携しながら努めている。	家族と受診する時は、メモ書きや口頭で本人の様子を伝えている。専門医の受診は殆ど職員が同行して健康状態を伝えている。受診記録は支援記録に記入してマーカーで印をつけているが、今後は個別に受診記録を整理したいと考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	社内には看護師がおり、相談や些細なことでも情報の共有を行い支援につなげている。また、主治医への情報提供とその後の指導や受信につなげている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には治療方針や、その後の経過などの情報交換を行い、退院計画も含めた相談を定期的に行っていくことで、病院関係者との関係を作り支援につなげている。また、ご家族様とも話し合いの場を設け、共有することで支援につなげている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様や主治医と話し合い対応していけるよう努める。	利用開始時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」に沿って、事業所として可能な対応について説明している。常時医療行為が必要になった時は対応が難しくなるが、主治医の判断の下、家族の希望に応じて看取りも可能である旨を伝えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、年2回の救急法や心肺蘇生術の実地訓練を行っている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署と近隣の地域住民の協力を得て、職員全員を対象に定期的に避難訓練を実施している。	消防署の協力を得て、夜間の火災や日中の地震から火災を想定した避難訓練を実施しているが、地域住民の参加は得られていない。今後は火災以外の災害時の具体的な対応を確認し、職員の救急救命訓練の受講を順次進めていく意向である。	近隣施設職員や地域住民の参加の下に、避難訓練が実施されるよう期待したい。	
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者様の尊厳を大切にし、声がけなどに配慮している。	利用者の呼び方は原則として氏名に「さん」付けにしているが、本人や家族の希望で馴染みの呼び方をする場合もある。管理者は、利用者を年長者として敬い、禁止用語は使わないように指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方に合わせた言葉がけなどを行うようにしており、できるだけご利用者様の意思での自己決定ができるように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の個々のペースを第一に支援に努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみのケアは声かけや支援により行われており、美容は訪問理美容にお願いしている。また、お買い物など支援に努めている。			

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片付けなど個々の残存機能に合わせて無理強いしない程度にお手伝い頂き、食事が楽しんでいただける様努めている。	調理専門職員が業者から毎日届く食材で調理したり、誕生日や季節行事には利用者が好きな献立にしている。畑で収穫した枝豆で白玉ずんだを作ったり、出前や外食で寿司を食べる機会も多い。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算がされたメニューと食材が業者より納入されており、バランスのとれた食事を提供できるよう努めている。水分提供はチェック表にて個別に管理支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じた口腔ケアしており、毎週の訪問歯科によりケアも受けているかたもいる。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限り布のパンツを使用できるよう取り組み、紙パンツやパットを使用されている方については排泄パターンをチェックし支援を行っている。	全体の3分の1程が自立している。日常生活記録表で排泄パターンを確認し、座位が保てる場合は手引き誘導や声かけでトイレでの自主排泄を促している。オリゴ糖を提供し、排泄が楽になるよう整腸管理をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便チェックをしており、主治医及び看護師のアドバイスの元、食事、水分や運動による便秘の予防に努めている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前午後を問わず、ご利用者様の希望や状況に合わせて入浴が出来るように努めている。	毎日2~3人が午前と午後1人ずつお湯を変え、好みの入浴剤を入れて入浴をしている。職員と歌をうたったり会話をしながら寛ぎの時間になっている。入浴拒否がある場合は無理強いせず、清拭やドライシャンプーを使って清潔維持をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の習慣を大事にし、その時の状況に応じて安心して休んでいただけるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的と副作用はある程度理解し、常に状態の変化に気を付けながら必要な時は主治医、看護師、薬剤師と情報共有し連携をとっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にあった個々の楽しみや過ごし方を職員間で話し合い、声掛けしながら支援している。			

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる限り希望に沿って戸外に出かけたり、歩行困難な方は車椅子での散歩や社用車によるドライブ、特にお買い物などには一緒に出掛けるなどできるような心掛けている。	天候の良い日は、公園や町内の散歩に出かけたり、近所の製茶店でパフェを食べて来ることもある。町内の夏祭りやゴミ拾いにも参加している。ホームセンターやスーパーに職員同伴で出かけている。冬季も個別支援で買い物に出かけたり、玄関先で外気に触れる機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理については事業所にて管理させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご友人からの電話の受け渡しの支援をさせていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気が感じられるように、リビングダイニングルームなどの配置に気を配っている。	玄関から廊下、居間台所など共用空間の床はフローリングで清掃が行き届き清潔感がある。加湿器や暖房、エアコンで適切な温湿度管理をしている。季節の飾りや日めくり、カレンダーなどを飾り温かみを感じられる共用空間となっている。廊下の奥のベンチやテレビ前のソファなど、自分の好みの場所でゆったりと時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や玄関先にベンチを設置させていただき、ご自分の時間を過ごしたり、ご友人、ご家族と過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具やご本人の好みの身の回りの品がある空間を作ることで居心地がよく安心して過ごせるように工夫している。	使い慣れた家具やテレビ、仏壇、扇風機や掛け時計などを置き、自分の習字や塗り絵、手芸品などの作品に囲まれて安心して暮らせる部屋になっている。居室床は絨毯で、転倒した場合も衝撃が少ないように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置やバリアフリー化したり、場所の把握ができるようプレートを設置するなど出来るだけ自立することができるよう支援し、また、安全な生活環境づくりに努めている。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503601		
法人名	有限会社 ほのぼの月寒		
事業所名	グループホーム ほのぼの月寒 2F		
所在地	札幌市豊平区月寒東2条19丁目20番19号		
自己評価作成日	平成28年10月19日	評価結果市町村受理日	平成28年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔と思いやり」の運営理念に基づき、ほのぼのとした雰囲気の中で楽しく生活できるよう、真心のこもったお世話を心掛けています。  
今年度の夏祭りでは、町内会や近隣の方々にも参加して頂き、日々、繋がりを大事にするよう努めています。  
ご利用者様の希望を叶えるプロジェクトも実践しており、思いやりを持った生活の支援を取り入れています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170503601-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170503601-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年10月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は一体感を持ち、ほのぼのとした日々が送れるように毎日の業務にあたり、実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	8月の夏祭りでは、町内の色々な方々と交流を持つなど関わりを持てた。今後も行事がある時には、より多く交流したいと考えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	玄関協に認知症に関する案内を掲示し、認知症に関する悩みや、支援の方法を地域の方々に向けて活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の活動報告やご利用者の状況を報告し、意見やアドバイスを大事にしてサービス向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市や豊平区役所と連絡をとる機会が多く、当事業所のご利用者様の状況やサービスを伝え、連携を深めるようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、職員は常に身体拘束に注意を払っている。又、玄関にはセンサーを設置し安全面に配慮している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に委員会を開き、各ユニット会議で確認し、職員全体として虐待防止に努めている。		

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象者はいないが、成年後見人制度の研修の場を設け、必要時に即対応できるようにしていきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時は重要事項説明書に基づき、明確に説明をしている。解約、改定においても同様に説明を行い理解して頂けるよう努めている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様来訪時には、職員が日常の様子などをお話しし、近況報告をすることでご家族様と職員との関係作りにも努めている。それに伴い、ご家族様が安心して話がしやすい環境作りにも繋がるよう心掛けている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は職員との個別面談の場を設け、意見や要望を聞く機会がある。管理者とも日常生活の中で会話を多く持ち、職員の意見、思いを伝えられる環境がある。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得における支援など、職員が向上心を持てるような環境作りをしている。又、人事考課制度を導入し職員の努力に応じた給与体系を作っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員が出来るだけ研修に参加できるように、互いに情報を共有している。又、社内においては研修委員会を設け、毎月のユニット会議で研修時間を設けている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連グループ施設のリーダー研修などを実施し、それぞれの施設の意見交換、勉強会を通じてサービスの質を向上させていく取り組みをしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ早く気付けるよう普段から耳、心を傾け、穏やかに安心して生活できるよう心掛けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の来訪時には、状況に応じて近況報告をし、ご家族様の思いにも添えられるよう関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランが今必要としている支援と捉え、忠実に且つ付随した支援に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ時間を生活する上で、思い合える関係でいたいと考えている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にご本人様の入居前の生活についてや、趣味嗜好などを教えて頂き、それらを生かし、ご家族様とご本人様の絆が切れぬよう共に支えていく関係を築いている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人、場所、物を取り入れたケアプランを作成するなど、関係が途切れないような支援を心掛けている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に笑顔が見られるよう、仲介、調整するよう努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても、医療機関で治療されている方のお見舞いに伺い、ご家族様と会う機会がある時には話ができる環境作りを意識している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	真にご利用者様が何を求めているか、情報を集めるようにしながら支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの情報はとても重視しており、来訪時にはできる限りお話を伺うようにしてサービスに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、心理状況の変化に対応できるよう細やかな変化に気を配るようにし、記録に残している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを計画する際は、ご家族様に参加して頂いたり、電話等で状況を報告、確認しながら意見交換しケアプランに生かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫の共有は行えているが、全体的な実践や結果へは足りないものと考え、強化するべく取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟なサービス提供は目指すべきものとして捉え、日々取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	関連各所との連携は取れており、近隣の施設等とも交流は取れている。より広範囲においての可能なサービス提供を目指している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診はできており、各医療機関とも信頼関係ができています。ご家族様へも受診内容を報告し、可能な際には同行して頂き意見を頂いたりもしています。		

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内の看護師と常に情報を共有し合い、往診時や病院受診の際に同席、同行して医療機関との繋がりに生かしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にはできるだけ多くお見舞いに行くようにし、ご利用者様の様子や治療過程を把握し、早く退院できるように努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期の対応は、ご本人様の様子をご家族様に報告した上で、事業所のあり方を説明しご理解頂いている。事業所、医療関係者間の情報共有にも力を入れて取り組んでいる。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時の連絡マニュアルを作成し常に職員の目に入る場所に掲示してある。応急手当や、初期対応の訓練も定期的に行っている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署の協力を得て年2回避難訓練を実施している。本年度は地震からの火災想定で行っている。			

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様それぞれの人格を大切にし、プライバシーに配慮し対応している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご利用者様の声に耳を傾ける努力をしている。ご本人様の思い、希望を聞き自己決定できるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の気持ちを尊重している。言葉で表現できない方には、問い掛けをし、表情などで気持ちを汲み取り、支援をするよう心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は定期的に訪問して頂き、毛染めなど希望がある時には職員が、ご利用者様と会話する時間を持ちながら染めることもある。			

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常生活にて調理(大根おろし、もやしの芽とり等)、片付けを職員と行っている。職員は、その過程で会話をし楽しんで行えるよう心掛けている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は業者にてカロリー計算が行われている。水分は個人ごとに記録表に記入し、種類など工夫して提供を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕食後の口腔ケアは日課となっているが昼食後はできないこともある。細かい部分においては、週に1回歯科往診を受けている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状態を確認し、布パンツ、リハビリパンツ、パット、日中、夜間と変えて支援を行っている。臀部の皮膚の状態も確認し、必要に応じて薬を塗布している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認を行っている。排便がない時には、医師、看護師の指示のもと下剤で調整したり、腹部マッサージ等も行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の入浴希望、入浴拒否があるため入浴希望は日時を問わずに行っている。拒否については状況、タイミング、言葉を選ぶ、職員が交代するなど工夫し声掛けを行っている。入浴できない時には、清拭で対応している。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠時間、体調、ご本人様からの希望により休息、入床を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は医師、看護師、薬剤師に指示を仰ぎ、処方箋の確認を行っている。薬に変更がある際にも都度確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外気浴、1階への訪問など日常生活の中での支援を行っている。月に何度かはユニット全体としてのレクリエーションも計画し、行っている。			

グループホーム ほのぼの月寒

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等の日常的な外出の他に、ご家族様の協力により小旅行や、外泊の支援も行っている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は全て事業所で管理しているが、希望の品を購入したり、ご自分で出来る方には財布からの金銭の出し入れをして頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望により職員が取り次ぎ、ご家族様や希望の所への電話や手紙のやり取りをして頂いている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや浴室等はわかりやすく表示し、リビング、ダイニングルームは照明やカーテンによる調光に配慮している。季節感のある飾り等も取り入れている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングはテーブルやソファの配置を工夫し、廊下にはベンチを置いて一人の時間を持てたり、気の合う方と過ごしたり、自由に過ごせるようにしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご自分の馴染みの家具や趣味の物、思い出の写真等を置いて頂き、居心地の良い空間作りに努めている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は全てバリアフリー化されており、共用部分、場合によっては専用部分にも手すりを設置し、安全に配慮している。居室、トイレ等はわかりやすく表示している。			



## 目標達成計画

事業所名 グループホーム ほのぼの月寒

作成日：平成 28年 11月 17日

市町村受理日：平成 28年 11月 21日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	・運営会議の案内送付の際に、議題を明確にできていない。また、御家族様の意見を反映できていない。	・御家族様より意見を頂き、事前にアンケートを実施し、運営推進会議の議題に取り上げる事で反映できる。	・御家族様に運営推進会議で取り上げる議題についてのアンケートを実施。現在回収中の為、1月の運営推進会議より反映。	2ヶ月
2	23	・各ユニットでの書式の統一がされておらず、入居者様の情報共有が難しい。書類に日付の書き忘れがあり、定期的な更新が出来ていない。	・各ユニットの書式の統一をし、スタッフ全員が情報共有できるものとする。	・書式を新たな物に変更し、綴る記録を統一する。ユニット会議等で情報展開し、スタッフ間で共有していく。	3ヶ月
3	26	・介護サービスの支援内容に沿って支援記録に記入されておらず、介護計画の見直しにいかせていない。	・介護計画に関連した内容を支援記録に記載する事で、介護計画を意識したケアに繋げる。	・支援記録用紙を一部変更し、サービス内容に付随した記録を記載できるようユニット会議で情報展開しスタッフ間で共有する。	6ヶ月
4	35	・避難訓練時の近隣施設の参加は、電話での参加のみとなっている。実際に参加はされていない。	・実際に想定しての訓練として参加して頂けるように声かけをしていく。	・実際に参加して頂けるよう、避難訓練の役割の中に組み込んで実施。次回は1月予定。	2ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。